海外研修報告

フィンランド海外研修報告（ＰＩＳＡ型学力の育成）

Ⅰ　研修の内容

教育課題研修指導者海外派遣プログラムにて，１０月２１日～１１月１日まで，ＰＩＳＡ型学力の育成につながるフィンランドの教育制度についての研修に参加した。

１　研修調査団の研究課題

（１）PISA 型学力を育むための授業づくりのあり方

（２）フィンランドと日本の理数科教育

～日本に合った数学的・科学的リテラシーを身につけるための授業づくり～

（３）　力量の高い教師が育つ環境のあり方

（４）　自立を保障する学校教育と家庭・地域・行政とのかかわり

２　調査団の調査対象

学校　　：スオメンリンナ小学校，ヨキニエミ総合学校，
クオッパヌンミ総合学校，トゥルク・フィンランド高校，トゥルク大学，
リエスカラハテーン中学校

関係機関：国家教育委員会，セッロ図書館，エウレカ科学技術館，トゥルク市教育課，
ヘルシンキ大学付属ヴィーツキ教員養成訓練実習校

Ⅱ　研修のまとめ

１　フィンランドの教育制度の特徴

（１）一人ひとりを大事にした平等な教育

フィンランドでは国家および自治体の予算の 11～12%が教育にあてられ，就学前教育（6 歳），基礎教育（7 歳～16 歳），高等教育，大学院は無償となっている。教育は「信頼」と「協同」で成り立っており、国と自治体，教師と児童・生徒，学校と地域・家庭など様々な関係性の中で，相互に尊重しながら教育を行っている。

（２）生徒が自ら考えて主体的に学ぶことが基本

授業では個々のレベルに応じて，自ら学習していく。職業や人生を決めていくのは自己責任とされ，学ぶ目的や学び方を身につけさせる教育がなされていた。

（３）修士課程を修了した優秀な若者が教師を目指す

教師になるためには大学院で修士課程を修めなければならない。若者の間で教職課程は人気が高く，教師はあこがれの職業で定員の 5 倍にあたる志願者が集まっている。

２　考察

・権限と責任はすべて学校に与えられていて，学校にやる気を起こさせることによって成績を上げられるようなシステムがなされていた。

・教科の内容は基本的なものから非常に高度なものまで扱われているが，何度となく繰り返し学習するうちに児童･生徒の発達段階に応じて理解度が深まっていく。

・子供たちが学ぶことの楽しさを味わい「学ぶことは自分にとって価値のあること」と実感できる学び（授業）を，教師が構築していく教育実践こそが，２１世紀の学力「ＰＩＳＡ型学力」の育成につながるのではないかと考えられる。（松里中学校　奥山万寿美）